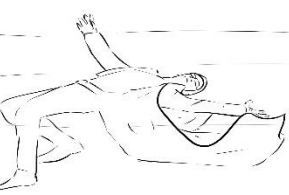


境きょう

マトリックスという映画は仏教思想をふんだんに取り入れて作られています。今この現実で起きていることは仮想世界ではないのか。ではだれがこの仮想世界を構築していくのか、と話を進んでいく映画です。中国の説話「胡蝶の夢」を見た時の感覚と似ています。では、なぜ仏教とのつながりがあるのでしょうか。

我々はなぜ苦しむのだろうか。お釈迦様は深い瞑想の後、これらを整理されました。十二縁起といいますが、我々は、その世界を識（認識）によって成り立っていることを明らかにされました。この認識によって見えるもの、世界を「境」といいます。

認識は、眼・耳・鼻・舌・身・意に分けられます。それぞれ見ること、聞くこと、嗅ぐこと、味わうこと、身体で感じること、考えること、ということなのです。



この認識の対象を、色・声・香・味・触・法と表せます。同じ味噌汁でも人によって味が違うのは認識が違うからです。この認識の違いで争いが起きたりします。それらに固執しないようにしようというのが仏教の中道です。

よっやくカボチャの雄花と雌花が同日に咲きま

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



も功德もお届けされた。私のところで仏がはたらいておられる。私の称える念仏が阿弥陀仏の喚び声であったといただくことが要です。

行ぎょう

「お坊さんは修行が大変ですよね」よく言われる質問の一つです。今回の「行」は様々に意味がある言葉です。

一般に「行」というと、冒頭のように修行が思い浮かぶのではないのでしょうか。一日の行動を著す行住坐臥の「行」は歩くという意味があり、修行を「行」といい、行いを「行」といいます。また諸行無常とあるように私も含めたさまざまな形成されたものを「行」といいます。

これだけ「行」にはたくさん意味がありますので、この「行」がどの意味で使われているのかを気を付けなければなりません。

最初の質問の修行という意味の「行」は、仏になるための「行」のことです。念仏を称える宗派への非難の言葉として「行」がないということがありました。ちょうど大河ドラマの時代です。この返答として親鸞聖人は「教行信証」を著されました。煩惱具足の身で行じがたい私の為に、法蔵菩薩の時に行を成就され阿弥陀仏とされた。そして我が口元へ南無阿弥陀仏と行

